

三〇五 泥亀新田潮除堤普請証文

差上申証文之事

一 岩石垣長三百三拾六間

御修葺

但シ海面高四尺之処平均老尺五寸築足

裏込平均三尺

一 潮水門式ケ所

同断

但シ笠木戸前仕足シ

右者武州久良岐郡泥亀新田潮除ケ堤御普請、御目論見帳面之通り無相違出来仕、御見分御改被成候、相違無御座候、向後各別之大変無之候ハ、八九年も持保可申、難有奉存候、右之場所亡所ニも可被成候、被仰立、御普請被成下、塩場相續可仕、難有奉存候、自今御普請所大切ニ仕、破損等有之者小破之内統、右者武州久良岐郡泥亀新田潮除堤御普請御見分御目

岩石垣長三百三拾六間

長嶋段右衛門

山口右八郎

右者武州久良岐郡泥亀新田潮除堤御普請御目論見帳面之通り出来仕、御見分被仰下難有奉存候、 山口段右衛門

三〇八 平潟築立に付証文

一札之事

貴殿御地先南海磯干通、田中休蔵様御手代中御見分ニ御出被成候節、御吟味之上書付差上候通、其元より何ほと御築出被成候共、私共より地所ニ付少も違乱無御座候、縦何ほと御築立被成候共、私共屋敷江毛頭差障り申儀無御座候ニ付、跡々御代官様へも書付上申候、仍如件

寛保年酉十二月

野嶋浦名主

所左衛門(印)

兵右衛門(印)

永嶋段右衛門殿

此度御普請被成候ニ付、御書上ニ入証文入置候、尤南海表汐干通ハ御勝手次第可被成候、以上

三〇九 普請金請取状

請取申御普請金之事

金式両式分也

右者泥亀新田御普請所、水門戸式枚村引請被仰付候処、不殘出来仕候ニ付、御願申出候得者、書面之金子御渡被遊、慥ニ奉請取候、以上、

泥亀新田

寛保三年亥壬四月

豊喜(印)

右之通相違無御座候、御金御渡可被成候、以上、

大河内孫六(印)

亥壬四月

大屋甚蔵(印)

佐野勘蔵(印)

三一〇 普請金請取状

請取申御普請金之事

金式両二分也

右者泥亀新田御普請所、水門戸式枚村引請被仰付候処、不殘出来仕候ニ付、御願申出候得者、書面之金子御渡被遊、慥ニ奉請取候、以上、

寛保三年亥六月

泥亀新田

豊喜

伊奈半左衛門様／御役所

外二

石垣御普請出来御届書老通、先達而上候、 右両様共御届ケ相済候、

三一一 走川新田入込一札

一札之事

一、私儀当月朔日走川御新田江入込藻草取候処、御見答被成、則組合江御届ケ之上、名主江も御申達可被成候之処、組中御願御詫申候事、

一、前条之通、右御新田之儀ハ乙所と被申、高役等年来御勤被成、殊更近年少々ツ、立返、御年貢御上納之場ニ御座候得者、むさと他所より入込、理不尽仕間敷所、平日私ニ不限当村中より大勢入込、藻草取候儀兼々被及御聞候得共、此迄御見届ケも無之候故、御用捨被成候処ニ、右朔日私御見答ニ相一言之申訳無御座候、然上ハ後々村中大躰之不埒一切仕間敷由、名主組頭中より急度申渡、理不尽不仕候様ニ為相慎可申旨、加印之者を以御挨拶申候ニ付、此度内分ニ而被差置忝奉存候、

右之通御請合申候上者、向後少も彼之地ニ而不埒仕候者、何分ニも思召次第可被仰達候、為後日証文仍如件

寛延三年午五月

武州久良岐郡寺前村之内、谷津

当人

与平(印)

同 五人組 七兵衛(印)

喜左衛門(印)
証人 庄治郎(印)
同 永嶋段右衛門様

三一二 走川新田入込一札

一札之事

一、貴殿御地面走川御新田ニ而、藻草寺前村より度々取候儀御見届ケ再応御届ケ被成候処、是迄御詫申置候処、猶又此節支配之百姓共大勢入込取之、剩芦等迄取、道普請ニ遣候儀御見答メ、拙者江御届ケ被成、御役所江可被仰上旨、御尤ニ存候、此上少も右躰之不埒いたし候者、思召次第先此度加印之ものを以、達而御詫申候、御聞濟被下忝存候事、

一、境之儀者、道下通貴殿御先祖御新田開変之節、御発被置候石有之候得者、是を限り道より下者其元御地面ニ紛無之候間、道広かり候者、其節立会相改メ可申候、道普請いたし候進も、貴殿江御案内申其上人足差出可申候間、御立会御見届ケ可被成候事、

右之通此上少二而も不埒いたし候者、思召次第可被成候、其節一言之申分無御座候、為後証之一札入置申候仍如件、

勝次郎(印)

市郎右衛門(印)

新五郎(印)

三二五 太平次方狼藉一札

一札之事

一、当月十四日夜、洲崎村太平次方より其元様米代金催促被遣候処、生之助以之立腹致、剩脇差を抜太平次宅江狼藉仕候、依之名主太右衛門方江吟味致被下候様ニ、度々頼申候得共、取上不申、十六日迄打捨置候、猶又其元御老父様御寺参り之御戻り之節、太平次宅江御寄り御帰り懸ケを見掛、是又脇差を持追掛候を、組中與左衛門飛掛り奪取候を、けたをし猶更追かけ理不尽致候ニ付、五人組并組頭名主迄御届被成、御公辺ニ被成候而者、生之助一言申分無御座誤入候ニ付、洲崎村竜花寺様、町屋村伝心寺様、村役人組中之もの御頼申、御公辺御止被下候様御頼申候、御聞濟被下忝奉存候、然上は向後生之助者勿論、其外共村中より右躰之狼藉、御子孫末々迄致懸申間敷由、名主組頭急度申付候間、万一右躰之不埒出来仕候ハ、此書面を以不寄何時御申立可被成候、尤生之助太平次和談致候上者、自今遺恨之含申間敷候、為後日一札如件

洲崎村当人

宝曆六年子四月十八日

生之助(印)

五人組

与左衛門(印) / 喜右衛門(印)
/ 与次兵衛(印) / 門四郎(印)
永嶋段右衛門殿

三二七 普請金請取状

覚

一、金式拾兩壹分 永式百四拾九文式分
右者武州久良岐郡泥龜新田石垣当戌年御普請御入用金、書面
之通御渡被下置慥奉請取候、以上

久良岐郡泥龜新田

明和三年戊七月

名主 光右衛門(印)
地主 段右衛門(印)

辻源五郎様 / 御役所

三二二 入江新田開発に付一札

一札之事

一、武州久良岐郡金沢瀬戸橋上入江新開之儀、明和八卯年二
月御代官久保田十左衛門様御見立廻り御分見被遊、貴殿江引
請開發被 仰付候二付、縁通村々立会境等相改、巨細御案内
仕御分見奉候、勿論右絵図面江村々聊相障儀無之、右新開二
付未々御願筋毛頭無之段連印差上候処、是迄開発及延引、此
度金主出来、御公儀様江願書被差上候二付、先達而久保田十
左衛門様御吟味二而相濟有之候得共、又候此度村々江故障無
之哉之旨御対談被成候、先達而御分見縁図面に連印差上候通、
村々一同相障儀無之候、右一件二付自今以後御願筋毛頭無之、
相障儀無御座候間、御願書被差上御下知被 仰付候ハ、新開
普請可被成候、尤貴殿引請開發被成候得者、私共供々御世話
可申候、為後日□□連印一札仍如件

米倉丹後守領分

武州久良岐郡金沢領 平分村

社家分村

安永八亥年十月

名主 直右衛門(印)
組頭 勝右衛門(印)
同 三右衛門(印)
同 段右衛門(印)
同 紋右衛門(印)
三嶋大明神領
同 同郡金沢瀬戸
名主 長右衛門(印)
東照宮御供料
同 同郡金沢平分村

別当円通寺

名主 直右衛門(印)
米倉丹後守領分
同 同郡寺前村名主

組頭 喜右衛門(印)
平左衛門(印)

同 同郡赤井村

同 領分同郡赤井村

名主 清左衛門(印)

組頭 七左衛門(印)

同 太郎左衛門(印)

同 百姓代 清五郎(印)

同 領分同郡宿村

名主 藤助(印)

組頭 徳兵衛(印)

同 百姓代 仲右衛門(印)

杉浦八良五郎知行所

同 同郡町屋村

名主 重兵衛(印)

組頭 惣左衛門(印)

同 百姓代 勘右衛門(印)

倉橋門通知行所

同 同郡下町屋村

名主 宗右衛門(印)

組頭 源助(印)

同 百姓代 嘉兵衛(印)

同 知行所同郡洲崎村

名主 源八(印)

組頭 新五兵衛(印)

同 五郎左衛門(印)

同 百姓代作左衛門(印)

同 同郡泥龜新田 / 段右衛門殿

三二三 野嶋山伐木に付一札

一札之事

一、野嶋山之内貴殿御所持之山林江、去卯年より当辰春迄入
込、雜木并杉木夥敷伐取候処、又候此度洲崎二而庄右衛門・
幸七・東町市平、右三人松木伐取申候を御見答被成、去卯年
より以来之木数御改被成候処、松木百本余有之候二付、右三
人之者共相手取、村役入中江御断、木沓本二付錢三貫文宛差
出候様御願二付、右過料錢可差出旨、村役人中より被申付ケ
承知奉畏候、然共困窮成もの共二而、過料錢一向出来不仕、

必至行当り度廻仕、過料錢御用捨被下候様御託申候処、過料
錢用捨いたし候而ハ、外々之者共聞恐も仕間敷、未々之控も
不立、不法成ルものは我儘相募、政道も不立猥り相成候
二付、何分双方立会木数相改、世上隣村並控之通過料錢、急
度御取候哉旨ニ御座候、右之通逐一御尤ニ奉存候、然共至而
困窮成もの共之儀鳥目百文之儀も働出来不申、当日ニ難義仕
候二付、同村西町惣右衛門・平七・庄左衛門三人相頼御救被
下候様ニと、達而御佗仕候処、御聞濟御用捨被下忝奉存候、
依之未々御所持之山林江、猥入込枝葉者不及申、下草等二而
も取不申様、当人ハ勿論連印之もの共政道急度可仕候、若猥
り相成御見答メも被成候ハ、此度之連印之者共より、沓本
二付錢三貫文宛、木数程御佗不仕急度差出可申候、その節違
乱仕間敷候、右之通御承知被下、大勢相助御救と忝奉存候、
依之未々前条之通、急度相守可申候、為後証加印一札入置申
処仍而如件

当 人 幸七(印)
組 合 庄兵衛(印)
同 助次郎(印)
同 紋兵衛(印)
当 人 庄右衛門(印)
組 合 弥五兵衛(印)
同 半兵衛(印)
同 仁平次(印)
当 人 市平(印)
組 合 三左衛門(印)
同 仁兵衛(印)
同 重右衛門(印)
同 吉右衛門(印)
取 扱 人 惣右衛門(印)
同 庄左衛門(印)
同 平七(印)

天明四年辰三月

三二四 普請金請取状

御金請取証文之事

金高三百五拾兩之内

一、金百拾五兩也

外金百式拾兩者先達而奉請取候分

右者此度御新開御普請御入用金之内、書面通只今慥奉請取候、
質地之儀者先達而証文差上置候田畑、又候此度之質地ニ差上
候間、先証文之通、地面相違無御座候、為後日証文差上申所
仍如件

武州久良岐郡 泥龜新田

天明五巳年六月廿六日

段右衛門 (印)

同国同郡 六浦

直右衛門 (印)

相州鎌倉郡 上秋庭村

市左衛門 (印)

岸彦次郎様 / 御役所

三二九 泥龜新田讓証文

一札之事

一、岸彦重郎様御見立武州久良岐郡泥龜新田新田新開之儀、天明六年江川太郎左衛門様御檢地相濟、尤最初より貴様并拙者共地面引請、御水帳名前等書上、永々引請候積候處、同年七月出水二付、御普請所破損以來度々御分其外諸入用等、去未年より貴様御出金二而御賄被成候處、猶又此度御並見分之上、一先自普請を以田畑作附可仕旨、被仰渡候段、致承知候。右二付拙者共出金之儀、御懸合有之候得共、金子調達相成兼候二付、是迄相掛候入用金之儀ハ、拙者共損分二致、向後右新開不殘貴様江相渡申候、然上ハ以來新田之儀二付、何事二不寄相障義無之候、勿論御水帳前除之儀者、此方より書付を以御役所江願上候様可致候、為後日讓証文仍如件

天明八申年九月 武州久良岐郡宿村 作能右衛門

相州鎌倉郡上ノ村 藤左衛門

同国同郡岩瀬村 源左衛門

同国同郡上野庭村 市左衛門

武州久良岐郡 / 泥龜新田 / 段右衛門殿

三三〇 實地証文

相渡申有合田地証文之事

走川西道下

一、下田三反五畝歩

泥龜新田古田三枚

同断

一畑成り三畝歩

同断老杖

反別合三反八畝歩

此金三拾七両也

但文字金也

右者、当戌御年貢并金沢入江新田普請金二差支、右金儲受取、右田地有合二相渡申處実正也、年季之儀は、当戌より来未迄拾ヶ年季二相定候、年季明候而も縦年月を經候共、右金返済申候者、右田地無相違御返可被成候、来亥より御年貢并年中諸入用米式俵宛、毎年泥龜新田江御納可被成爲後日仍如件

武州久良岐郡泥龜新田地主

寛政二戌年七月

段右衛門 (印)

町屋村証人 / 甚右衛門 (印)

名主 / 嘉十郎 (印)

町屋村 / 藤右衛門殿

右此田地二付、外より少も構申者無御座候、以上、

三四三 入江新田船入に付一札

一札之事

一、金沢入江新田之儀、天明五午年御高入二相成、川筋たり共通船可致場所二無之処、表潮除堤及破損候二付、今般船入致度旨、及御対談候所、御承知被下忝存候、尤御新田差障り不相成様可致候、勿論以來御普請御取掛り被成候節は、何時成共舟留可致候、為後証一札仍如件

文化三寅年十二月

赤井村 組頭 太郎左衛門 (印) / 百姓代 繁八 (印)

宿村 名主 兵四郎 (印) / 百姓代 喜兵衛 (印)

相州矢部町 / 取扱人 五郎左衛門 (印)

泥龜新田 / 名主 / 嘉十郎殿

三四四 入江新田船入に付一札

差入申一札之事

一、金沢入江之儀は、其元新田御請所二而、天明六年御檢地御高入二相成、御分間之は船入可致場所無之趣二候得共、當時表汐除堤及破損有之候二付、再開発御普請御取懸り被成候迄、当村之一同船入稼致候得者、勝手宜敷場所二有之候間、其段扱人中より被及御懸ケ合候處、御承知被下、右躰船入稼致候上者、貴殿御上納永二准し、村方よりも貴殿江年々冥加錢可差出等二候得共、此度相談之上、右冥加錢再開発迄之手当として、此節金式拾両差出申度、是又御聞届被下候、然上者、漁獵稼其外都而再開発差障二相成候儀、決而仕間敷候、尤御普請御取懸り之節者不及申、心得違等も致し候ハ、何時船留被成候共、一言之儀申間敷候、為後証扱人加判一札入置申所如件

文化五辰年五月

洲崎村

名主 幸右衛門 (印)

同 甚兵衛 (印)

組頭 作左衛門 (印)

百姓惣代 園右衛門 (印)

野嶋浦

名主 四郎兵衛 (印)

同 新右衛門 (印)

同 庄兵衛 (印)

町屋村

名主 徳右衛門 (印)

同 孫右衛門 (印)

組頭 七郎兵衛 (印)

同 市左衛門 (印)

百姓惣代 孫右衛門 (印)

谷津村

名主 山三郎 (印)

組頭 太右衛門 (印)

百姓惣代 孫兵衛 (印)

寺前村

名主 沢右衛門 (印)

組頭 伝右衛門 (印)

百姓惣代 助八 (印)

室木

船持 勝右衛門 (印)

同 利兵衛 (印)

同 儀左衛門 (印)

三艘

船持 文五郎 (印)

同 与兵衛 (印)

保土谷宿

同 名主後見人

扱人 専助 (印)

同宿

年寄 扱人 五右衛門 (印)

泥龜新田 / 名主 / 嘉十郎殿

三四五 入江新田船入に付一札

差入申一札之事

一、貴殿御所持午御高入新田、當時表汐除堤破損致居候二付、再開発御普請御取懸り被成候迄、私共村方二而鰻取稼致度旨、御世話人中を以御対談候處、御承知被下忝存候、然上者老ヶ年船老艘二付、冥加永百文宛、年毎船員数増減二随ひ、右積りを以、年々十一月限、急度相濟可申候、勿論新田再開差障二不相成様、稼可仕旨承知仕候、又再開御普請御取掛之節は不及申、心得違之儀等致候ハ、何時船留被成候とも一言之義申間敷候、為後日一札入置申所如件

洲崎村

鰻稼船持惣代

文化五辰年五月 庄五郎 (印) / 同 安右衛門 (印)

組頭 作左衛門 (印) / 名主 甚兵衛 (印)

保土谷宿 / 年寄 / 世話人 五右衛門 (印)

／同宿／名主後見／世話人 専助(印)
泥亀新田／名主／嘉十郎殿

三四六 入江新田船入に付一札

差出申一札之事

一、貴殿御所特之午御高入金沢入江御新田、当時表汐除堤破損致居候得共、御分間御繩内之儀は川筋たり共、船入可致場所二無之候所、此度私義心得違二而、舟入度世仕御見科メ被成、一言之儀無御座、達而御詫仕候得共、先達而船共 村方二候処、右舛之始末有之、例度之儀二付、此度は御承知難被成、村役人方江御申可被立由二御座候、左様相成候而は当人は不及申、村方之者共迄、無沙汰為立入申間敷、私共御請合仕候間、何卒此度之儀は御勘弁被成下度、加判之者共一同御詫仕候所、御承知被成下忝仕合二奉存候 依之為後日加判証文差出申候所如件

文化五辰十二月

相州三浦郡

四ヶ村之内鉈切

当人 与助(印)

同 組合惣代

甚兵衛(印)／久治(印)

野嶋浦

証人 幸七(印)／同 平重郎(印)

泥亀新田

名主／嘉十郎様

三六八 入江新田故障出入願状

乍恐以書付奉願上候

故障出入 松平大和守領分／武州久良岐郡／泥亀新田

／名主

願人 段右衛門

差添人 誰

凌雲院御別当所／同州同郡／坂本村 名主

相手 太左衛門

一、右願人奉申上候、当村之内金沢入江新田之儀、去ル天明五巳年御勘定岸彦十郎様御見立二而、開発再御普請被仰付、同六年年、右御同人様御立会、御代官江川太郎左衛門様御檢地御高入二相成、則高式百四石六斗六升六合五夕、此反別田畑合式拾七町八反三畝六歩之御畝歩詰二罷成、御水帳頂戴、其以來入江新田と名目被成下、一村被仰付候処、田方之儀者汐入二相成候二付、御見分被成下置、年々汐入不作引ケ被仰付、畑方之分者御割附之通り、御年貢高掛り諸役入目等迄無

滞上納仕、御年貢皆済御目録其時々之御支配御役所より頂戴仕候得共、右場所年々田畑共汐荒多、追々皆荒二罷成候得共、為冥加之、畑方御年貢并二諸役、是迄無滞上納仕候儀二御座候、然ル処、前々より荒所之分起返し、丹誠可致旨、御支配御役所より被仰付候得共、不作打続、且は普請入用等乍恐多分相掛り、甚及困窮二、自力二難及、無余儀其時々御免相願罷在候処、去ル卯年、松平大和守様御領分被仰付、則前書御高入之通り御引渡可相成候、然ル処、右之通り荒所多、且は小村二而、諸御用向相勤、乍恐差支之義も有之候二付、今般為御国恩之、右荒所起返し丹誠仕度、御領主様江奉願候処、御高入之通り御引渡二相成候村方二は候得共、年曆相立候儀故、為念縁り通り村々より、先年開発時節之通り故障無之旨之調印取之、可差出、左候得者御筋江御届ケ申上、其上二而下知可致趣、被仰聞候二付、則縁り村々相廻り、断申入候処、何れも先前之通り聊相障候儀無之、夫々納得之上調印二相成候処、右相手之村方調印不仕候二付、故障之意味承り候而も、取留り候儀も不申、依而再応示談二及候得共、右田畑二相障捨と色々申偽、一円承知不仕、猶亦無謂多分之金子可差出様と不法千万之儀申掛ケ、迷惑至極仕候、尤先年開発之砌り、御公儀様二おひて精々御取調有之、縁り村々一同聊相障義無之候二付、御普請被仰付、既二御高入以來六十年来御割附之通り御年貢上納、老村相続仕罷在候、猶又古田畑二相障り之義、聊も無之、此故は縁り村々一舛二至而早檢地二而、年々日焼多ク難渋致し場所柄二付、万水之うれい杯可有謂無之、且は民家二心し田地至而無少、依而は窮民之養二も相成候儀二付、縁り通り村々先前之通り、聊故障無之、調印二相成、別而相手坂本村之儀は外村々と違ひ、起返し場境より相放、地味余程地高之村方二御座候間、相障り可申謂無之候得共、只々強情而已申募り、調印相拒、今更村内荒所起返し二付、故障有之候ては、何共難渋至極仕候間、何卒御仁察被成下置、右相手之村方御呼出之上、御吟味被成下置納得致調印仕候様、格別之以御慈悲を、御利解被仰聞被下置候様、偏二奉願上候、以上、

三八〇 入江新田出入済口証文

差上申済御証文之事

松平大和守領分武州久良岐郡泥亀新田名主段右衛門より、紅葉山御別当領同郡坂本村同太左衛門外式人相手取、難渋出入申立、去巳七月廿五日御取候、同月廿五日御取候、御專判頂戴相附候二付、相手方より返答書差上、当時御吟味中二御座候処、掛合之上熟談内済仕候趣意、左二奉申上候、一、右出入訴訟方二申立候は、金沢入江新田之義は往古汐入

沼地二候処、明和之度御代官久保田十左衛門様御見立二而、右沼地御分間被遊、反別六拾町歩余之処、亡祖父段右衛門存生中開発被仰付候間、縁付洲崎村外九ヶ村故障有無取調候処、同村外八ヶ村二而は故障無之、村々役人共連印之一札差出候得共、今般之相手坂本村二限り、差障候間其段御訴奉申上候処、御勘定御奉行所様江坂本村役人共被召出御札之上、無故障二付、心得違之旨、御利解奉承伏、御請証文差上候処、開発人段右衛門長病相煩、無余儀打過罷在、天明五巳年御勘定岸彦十郎様御見立を以、右場所開発之義、猶又同入江被仰付候間、其節之御支配御代官江川太郎左衛門様御役所江、其届申上候所、洲崎村外九ヶ村故障御札御座候得共、聊障無之旨御受仕、拾ヶ村役人共一同、村々地先境筋御案内申上、於場所二御認メ御座候御分間御繪図面江、一村限り役人共調印被仰付、亡祖父段右衛門方二而引受、翌午年新田開発は勿論表汐除堤内江川除堤其外等御仕様状通、皆出来相成、御勘定岸彦十郎様御支配江川太郎左衛門様御立会御檢地之上、新田高式百四石六斗六升六合五夕、田畑合反別式拾七町八反三畝六歩、外二見取田拾町六反式畝式十四歩之御高入二相成、御檢地帳段右衛門方江御渡被遊、村名を入江新田と被仰付、一村御取立二相成、重々難有免地守護罷在候処、寛政二戌年稀成高汐二而、表汐除堤打崩シ、新田汐入荒地二相成、御支配御役所より御見分之上、田方之分は汐入引被仰下候へ共、畑方年貢高掛り諸役等冥加之為、是迄弁納弁役罷在候次第二付、捨置候而ハ御国益二相拘り候間、度々御支配御役所より御地所起返之義被仰付候へ共、大金之義二付、容易二難取掛り、追々荒いたし、起返可相□□□内、当四年以前、卯年当領主松平大和守より領分渡二相成候間、右新田起返し相願候処、役場同人中見分之上、願之通起返し被申付候間、直様可取掛之処、数年荒地二致置候事故、為念之先規二基き、新田縁り付洲崎村外拾ヶ村江、故障有無為(念)聞合候候処、同村外八ヶ村は聊障無之旨一札差出候得共、今般之相手坂本村二限り彼是差障候得共、右新田起返し相成候得は、相手坂本村其外縁付村々之内、古田荒地之分ハ自然本免二立戻候義二而、聊障二可相成義無之、相手之もの共無謂故障候、依而右新田起返不相成候而ハ御国益二拘り、以上二対し恐入、且ハ亡祖父代より年来之志願、空敷相成歎ヶ敷段、其外品々以上

三八二 入江新田一村取立願状

乍恐以口上書奉願上候

一、泥亀新田之内金沢入江新田右両村共、先前より御支配所二有之候処、去天保十四卯年中当御領分二相成候、然ル処右入江新田之義、明和年中久保田十左衛門様御見立、私亡祖父

江開發被仰付、則以引請奉申上候處、又候飯塚伊兵衛様御支配二被成、右飯塚様御世話被統、岸彦十郎様御見立二相成、右御同人様より、前書之通り、私亡祖父段右衛門江引請被仰付、去ル天明六年迄二内仰諸普請田畑不殘開發皆出来仕、御支配御代官江川太郎左衛門様御檢地奉請

田畑合式拾七町八反三畝六歩
此高式百四石六斗六升六合五夕
外見取田拾町六反式畝廿四歩

右之通一村二御取立、御水帳奉頂戴、則御年貢上納仕、御割付皆濟御目錄奉頂戴候處、右新田汐荒二被成、從而其時之御支配様より、新田荒所起返し可仕御利解有之候間、種々起返し丹誠仕度、年来心掛ケ仕居候、尤是迄御高入以來右荒所二相成候而、田方之義八年々汐入不作引候得共、畑方之分ハ御割付之通上納御年貢諸役相勤来候處、去ル天保十四卯年当御領主へ本村共右新田前御高入之通り、老村二而御引渡し二相成、則當御役場よりも御割付皆濟御目錄書頂戴仕候、然ル御高入之一村荒所二至候而ハ、奉對御上様へ恐入候御義二有之候、而も荒所起返し丹精可仕二付、御利解被得申候二付、今般為御国恩、荒所起返し仕度奉願上候處、扁村々拾ヶ村之内、坂本村老ヶ村故障仕、起返し延日相成難渋仕候、且坂本村之義ハ、右新田上二而猶又新田より拾町余も山岸之村方故障仕候義無之、猶右村地先ハ、汐荒二相成候へハ、新開起返し二相成候得ハ、坂本村地先の少々有之候得共、□□荒所之義も本□相成候義二有之候得ハ、故障仕候義有之間敷候處、兎角紅葉山御別当料之御位光ヲかり、無跡事ヲ申候て、故障ヲ申候義二御座候、乍去捨置候而ハ、前段御高入之内汐入不作引相成居候場所起返し二難相成承り、潰地二致置候而ハ乍恐御国益筋二相拘り奉恐入候義二付、乍恐今般御奉行所様へ奉訴訟度段、當御領主御役所へ奉申出候處、御役場二而も御差出被遊之趣二と被仰聞候得共、未夕御調中二而、御差出し延日仕甚難渋仕候、右二付奉相願候以前、奉申上候通り、金沢入江新田之義ハ、去天明六年御代官江川太郎左衛門様廻リ御分見被遊、則御分間絵圖御仕立被為遊、猶御檢地帳村方へ頂戴被仰付候、然ル御分間絵圖面野帳無之、甚々難渋至極仕候、依奉恐入之義二ハ有之候得共、前書申上候通り、御代官江川太郎左衛門様御取立之新田二御座候得ハ、定而右御役所二乍恐御分間絵圖面野帳共有之と奉存候、依而尊公様御儀並山様へ者御出入被遊候御嚙承知仕候二付、取継り御願申上候、右御役場二而全老村御取立申候分被思召、御分間絵圖并野帳共御下ケ被成下置候へ、莫太之御慈悲と難有奉存候、何分にも速二故障相片付、起返し相成候間、偏二奉願上候義也、

三八八 石場請取状

一札之事

明神宮裏手に而

一、石場老ヶ所 但（長拾五間／奥行五間）

右は今般入江新田起返し二付、為御見舞被下置、厚思召之段千万忝儘二受納仕候、尚此上切出上等之儀、万端御添心可被下候、為念一札差出申候處如件、

弘化四未年二月 永嶋段右衛門（印）

千葉主殿様

三八九 永代借地証文

永代借地証文之事

一、此度入江新田起返し仕候二付、明神宮御境内姫子嶋裏手并右根付通不殘、依先例二借地相願候處、御聞濟被下、難有奉存候、然ル上ハ、右御年貢として、年々金式分宛上納可仕候、為後日借地連印証文仍而如件、

松平大和守領分
武州久良岐郡泥龜新田

弘化四未年二月

拝借人

永嶋段右衛門（印）

同領同州同郡町屋村／名主 松本藤右衛門（印）

同領同州同郡野嶋浦／名主 久保寺四郎兵衛（印）

米倉丹後守領分／同州同郡赤井村／立合人名主

相沢清左衛門（印）

同領同州同郡六浦村／同名主 北川武左衛門（印）

瀬戸／御役人中

三九〇 永代借地証文

書付之事

一、入江新田起返し二付、御境内姫子嶋裏手并右根付通不殘借地相願、御聞濟被下、難有仕合二奉存候、然ル上二は、字台ヶ崎より上、新田半分も出来候ハ、何れ之所二而も新田五反歩寄附可仕旨、相願候處、御承知被下、尤上田御年貢諸役等ハ御差出可被下候、御引合相違無之、為念一札差上候處仍而如件

弘化四未年二月

拝借地主／永嶋段右衛門（印）

証人野嶋浦／久保寺四郎兵衛（印）

同町屋村／松本藤右衛門（印）

立合人／相沢清左衛門（印）

同／北川武左衛門（印）

四四七 野島村名に付一札

差上申一札之事

當村之儀、元來洲崎村之内二而、都而元村に孕、何事も元村二而進退いたし来、野嶋浦之名義不分明二御座候處、多年之間、格別之御厚情御配慮二預り、野嶋浦一村頭然いたし候儀、偏二御丹誠故と不淺奉存候、依之右御恩沢之程、往々違失為不仕、稜書を以左之通

一、天保十四卯年、倉橋内匠様御知行所より川越様御領分二相成候節、御触書を始、諸事野嶋浦之村名無之、都而洲崎村江而已御触達二相成候二付、夫々御厚情ヲ以、御内願被下、野嶋浦村名御書込二相成候事

一、川越様御領分中、御年貢其外諸御上納、都而元村江差出、元村役人より一同二上納仕来候處、野嶋浦御年貢上納之分、村方役人ヲ以、直二御役所江御上納いたし候様、御内願被成下、願之通被 仰付、御割附皆濟目錄者元村江一紙御下ケ二相成候處、其後御年貢御上納之節、仮御請取丈ハ元村野嶋浦と別二相納候二付、上納之節、別二双方江御下ケ被下候様、是又御内願被成下、願之通御聞濟二相成候事、

一、右御領分中迄者、當村宗門人別御改書上帳之儀、都而一元村合帳二而、何れも元村二而人別取調、印形之儀も村役人ヲ始小前不殘元村江罷越調印いたし、誠以迷惑いたし来候處、格別之御賢慮ヲ以、野嶋浦人別村方二而取調、小前印形取揃、當村役人ヲ以、直二御役場江差出候様、御内願被成下候處、双方落合願出候様被 仰渡候二付、此村江御談判被下候處、何分二も元村二而承知不致落合兼、此村より願出、既二素々之通可被 仰付之處、彼是内外深御厚情被成下、右人別御改書上帳、元村并當村方双方帳面江、村役人共双方より調印いたし合候筈二而、落合二相成、双方より願出、猶夫々御願立被成下、願之通被 仰付候事、

一、右御領分中御年貢御割附者勿論、皆濟目錄までも洲崎村江一紙二而御渡二相成、元村役人共より写ヲ以、當村江申通来候處、當村上納分御皆濟目錄文ヶ當村江御下ケ二相成候様、前条同斷御厚情ヲ以御内願被成下、願之通被 仰付候事、

一、右御領分中、村方渡船之もの渡世向之儀二付而者、厚御心配被成下、御冥加等も往々御上納二相成候様、深御賢慮御取斗被成下、其上上手向江渡船差出候儀二付而者、先々よりも厚御配慮被成下、何れも御蔭ヲ以安心渡世仕候様相成候事、

一、嘉永七寅年川越様御領分より細川様御預所二相成候節、

瀬戸／御役人中

諸御触書を始、野嶋浦之村名、洲崎村江相孕居、野嶋浦之村名無之候処、前条同断御内願被成下、願之通被 仰付候事、

一、右細川様御預所二相成、安政二卯年中、御料並御改正御座候処、元來当村方之義者、洲崎村之内二而、御公辺向洲崎村野嶋浦共と有之、別二者無之、依而御割附皆済目録等迄都而元村江一紙二而御下ケニ相成候筈之処、彼是内外深ク御賢慮被成下、御割附皆済目録野嶋浦分別二御下ケニ相成候様、御丹誠御内願被成候処、双方落合願出候様被仰渡候二付、元村江種々御談判被成下、元村二而も不容易義二付、得心不致、夫是時日押移り、漸安政四巳年九月御厚情ヲ以、双方落合ニ相成、連印願書江猶奥書を以御願上被成下候処、洲崎村野嶋浦田畑御年貢御上納辻迄悉御調訳ニ相成、御割附皆済目録共、安政二卯年より別稜御下ケニ相成候様相成候事、

但本文願出候二付而者、双方落合熟談往々睦敷可仕旨為取替証文いたし置、右証文江御加印被下候事、

一、文久三亥年、細川様御預所より堀田様御預被仰付候二付而者、御触書廻状順帳等、都而是迄者洲崎村野嶋浦共と有之候処、御役柄二付内外深御賢慮被成下、洲崎村之内野嶋浦と一村相頭候様御内願之上、御取斗被成下、猶亦御割附皆済目録之処も別稜御調訳之俟御代官江御差上被成下候様、御内願被成下、願之通御聞濟、都而其俟御代官木村葦平様江御渡ニ相成、右御代官所より堀田様江御渡ニ相成、弥以前条之稜々、往々村方龜鑑ニ相成候事、

右者重立候稜々而已相頭、余者筆紙ニ難尽、本文之稜々を以深察可致、年來之間内外厚御心配御賢慮被成下、野嶋浦一村頭然いたし候儀、全以御厚情御配慮之処より、御蔭ヲ以前書稜書之通漸々村方頭然いたし、一村相続仕候義、御恩沢之程村役人共者不及申、小前末々迄往々亡却仕間鋪候、依而者兩御新田御普請有之候節、又者何事ニ不限、自他之無差別御助合仕、猶後年二至り村役人共相替候共、厚相心得聊亡却為不仕、村方江書類残置、此元村同様御歳暮奉申上候、万一心得違之もの御座候ハ、此書付ヲ以、如何様ニも被 仰立可被下候、右後年違乱為無之、連印証書一札奉差上候処如件

久良岐郡野嶋浦
渡船宿
庄次郎(印)
幸七(印)

文久三亥年十二月 同 治右衛門(印)
甚左衛門(印)

五人組頭

兵右衛門(印) / 藤五郎(印) / 甚左衛門(印) / 新六(印) / 新七(印) / 半十郎(印) / 重五郎(印) / 佐次右衛門(印) / 久五郎(印) / 市右衛門(印) / 重右衛門(印) / 意三郎(印) / 八兵衛(印) / 孫十郎(印) / 門兵衛(印) / 平右衛門(印) / 伝四郎(印) / 仁平次(印) / 金兵衛(印) / 百姓代
喜兵衛(印) / 長四郎(印)

年寄 太郎右衛門(印) / 金三郎(印)
名主 久保寺金左衛門(印)
永嶋段右衛門殿
永嶋龜一郎殿

四八七 伊藤博文書状

拜啓 酷暑之候、益御多祥奉賀候、扱過般來夏嶋別業建築之儀ニ付而は、不一方御配慮を蒙り、御厚誼奉深謝候、甚輕微之至二候へとも、別封二品拝呈仕候、御配当被下候ハ、本懐之至存候、敬具
八月三日 博文
永嶋喜代次殿

四九一 西園寺公望書状

拜啓 然ハ唯今は見事なる鮮魚御惠贈ニ預り、御厚意奉謝候、早速賞味可致候、頃日御病氣之由、御容體如何ニ候哉、折角御自愛御保養專一ニ御座候、先は御礼旁々御見舞迄、草々不一
五月廿四日 侯爵 西園寺公望
永嶋龜代司殿

四九二 西園寺公望書状

拜啓 其後御容體如何ニ被為入候哉、折角御保養專一ニ奉願候、昨夕再々当地ハ罷越尚数日間滞在之積ニ候、此品誠ニ粗末之ものニ候得共、聊カ御病氣御見舞之印迄ニ持參致候間、御笑納被下候ハ、本懐之至ニ御座候、先ハ右御見舞旁々如此御座候、拜具
六月二日 侯爵 西園寺公望
永嶋龜代司殿

四九三 長嶋清橘書状

一筆啓上仕候、甚寒之節ニ御座候得共、尊君初御一同様益御機嫌能恐悦至極奉存候、隨而私方一同無事罷在候間、乍憚御

安意可被下候、扱其後は大無音、何共恐縮申上様無御座候、帰国後急速御礼書差上可申之処、遠州掛川表江急々引移可申旨被命候二付、掛川表江罷越候処、不快ニて当十月中迄平臥致居候間、彼是乍存大無音失礼之段、真平御仁免可被下候、扱当五月中升堂永々御世話ニ相成申、殊ニ御無理之儀相願御聞届被下、万々難有何共御礼申上様無御座候、実大慶此事ニ御座候、野母よりも宜御礼申上呉候様申出候
一、当夏罷出候節御約束申上候、先祖道仙法眼相認候扇面差上候間御落手可被下候、尤御成先ニ而御舞樂之節、御供ニて林大学頭信篤賦一絶相認此扇面同様之品御座候、是ハ私方残し置候間、其賦左ニ記し、入御覽置候、
元禄六年癸酉十月二十五日、我尊大君遊閑宿城主牧野氏備後守亭、御舞之次有命、使医官法眼長嶋道仙、調東北及自然居士二舞時、挾執政忍拾遺阿部豊後守所贈金扇幸持之、以舞之、自為榮挙而貽後証也、因賦一絶
鼓笛響相分 歌謡可以群 伊凶野人舞 高入上天雲
大学頭林信篤(印)

右之通相認御座候、
一、此短冊甚以乍龜少掛川表産物ニ御座候間、差上申候間御笑留可被下候、
一、御子息様東京小柳町御旅宿之節、小生伺候処、折悪御他出二而、御面会不申残念候、宜御鳳声奉願候、並御次男様御三男様初皆々様宜御申上可被下候、
一、私方も徳川家郡県相成候二付、御扶持方六人扶持相成、少々ハ當時安心候間乍憚御安意可被下候、
一、此度御親類様掛川表江御出ニ相成、未夕御面会は不仕候得共、浦和表より参り居吉村謹吾と申人より承り及、幸其後御方金沢表へ御出之趣ニ付、一封相願申候、委細は後便申上候、御礼状迄如此御座候、早々恐惶謹言
十二月十九日 清橘
段右衛門様 / 参る / 人々御中
尚々時候折角、御厭可被下候、乱筆御用捨可被下候、

四九四 添田知通書状

拜啓 弥々御清榮奉恭賀候、陳は此程伊藤大臣夏嶋御巡視ニ付而は、彼是御配慮奉鳴謝候、却説該地諸工費之内、金千円御送致有之候間、不取敢御伝進及候、御改御落掌之上、仮受証御遣し可被下候、右可得御意如此御座候、頓首
三月八日 添田知通
永嶋龜代司殿